



今年もかなり  
暑い夏です！

## 高品質米生産めざして！ 登熟期の適切な水管理を徹底しましょう！ 適期刈取りと適切な乾燥調製につとめましょう！

気象庁の 1 か月予報によれば、茨城県の **7/27～8/26 の平均気温は高い確率 80%** の見込みです。かなり暑い日が続くことが予想され、昨年、一昨年同様高温による玄米品質の低下（落等）が懸念されます。適切な水管理を行い、高品質米生産をめざしましょう。また、**今年は暑さのため、出穂期が昨年より 2～5 日早まっています**ので、収穫適期も早まることが予想されます。刈遅れにならないように注意しましょう。

### 1 登熟期（出穂期から成熟期）の適切な水管理の徹底！

7 月 5 日発行第 3161 号「高温障害対策で品質のよい米づくりをめざしましょう」で詳しく述べましたが、水稻の根の活力を維持し、十分な吸水ができるように、適切な水管理を徹底しましょう。

出穂期後 30 日間は落水を避け、間断かんがい（入水を止めて自然落水とし、田面が乾く前に入水）を行いますが、この時期は玄米の成熟にとって大変重要な時期ですので、田面が乾かないように十分注意します。田面に土が見えるようになり、みぞや足あとに水が残っている状態で入水しましょう！（写真）。



### 2 適期収穫で玄米品質の向上を！

登熟期（出穂期から成熟期）が高温の年は、白未熟粒（乳白粒、背白粒、基白粒など）だけでなく、胴割粒の発生が多くなります。特に刈り遅れるとさらに多くなりますので、適期の収穫が大変重要です。

コンバインによる収穫に適した時期は、穂首近くに緑色を残したモミ（<sup>たいりよくもみ</sup>帯緑粳）が 5～10% 程度の時です。収穫時期が近づいたら、平均的な生育の株の穂を観察して、表 1 を参考に収穫作業の計画を立てます。特に経営規模の大きい方は、収穫作業をやや早めに開始し、作業が後になるほ場が刈り遅れにならないように工夫します。出穂期別の「穂首近くに緑色を残したモミが 10% になる時期」の目安は表 2 の通りです。気温等によって変わりますので、ほ場をよく観察して適期を逃さないようにしましょう。

表 1 帯緑粳率による収穫適期判定目安

| 帯緑粳率 (%) | 収穫適期   |
|----------|--------|
| 20       | 6～7 日前 |
| 15       | 4～5 日前 |
| 10～5     | 適 期    |
| 3        | 刈り遅れ   |

表 2 帯緑粳率 10% になる出穂期後日数の目安

| 出穂期                    | 出穂期後日数  |
|------------------------|---------|
| 7 月下旬まで（あきたこまち、ふくまるなど） | 33～35 日 |
| 8 月上旬（コシヒカリなど）         | 40 日ころ  |
| 8 月上旬（にじのきらめき）         | 45 日ころ  |
| 8 月中旬（あさひの夢など）         | 45 日ころ  |

※出穂期とは、圃場全体の穂の 40～50% が出穂したとき。

今年は暑い  
ので、早ま  
るかも

### 3 適切な乾燥調製で玄米品質の向上を！

- 1) 収穫作業は、もみ水分が 25% 以下まで乾いてから行います。もみ水分が高いほど、また高温であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く（4 時間以内に）乾燥機にはりこみましょう。
- 2) 乾燥機の送風温度が高いと胴割粒が多くなります。送風温度は 40℃ 以下になるように調整します。
- 3) 胴割粒の発生を防ぐには、まず常温通風や低温での加熱乾燥により水分を 17～18% まで乾燥させ、半日から 1 日程度貯留して水分の均一化を図り、その後再度加熱乾燥して水分 15% に仕上げる「二段乾燥法」が有効です。仕上がり水分が 13.5% 前後と低くなると胴割れ粒が多くなりますので注意します。
- 4) もみすりは、穀温が外気温程度まで低下してから行います。温度が高いと肌づれ粒、胴割粒、砕粒が多くなります。
- 5) 白未熟粒や被害粒は粒厚が薄いものが多いので、1.85mm のふるい目を用いて、適正な流量による丁寧な選別で除きます。特に本年は、高温による白未熟粒や被害粒が多いほ場も予想されるので、丁寧な選別や色彩選別機を活用して、整粒歩合を高めましょう。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。